

# 「まるごと、自分」



## 田中恭代

(株)旭化成アビリティ  
[101-8101]東京都千代田区神田神保町1丁目  
105番地  
神保町三井ビルディング  
代表取締役社長。  
専門は人文科学。

10年前の話。私は旭化成の人財・労務部EO (Equal Opportunity) 推進室長として、年に数回、社外の方に女性活躍推進の取組につき話をする機会を得ていました。そういうとき、私は常に「上司や会社は、男女という性別で仕事を分けるのではなく、一人一人の個性や能力にあった仕事を考えることが大事だと思う。」とお話をしていました。

あるとき、講演後に若手女性新聞記者から取材を受けることになったのですが、いい感じでインタビューが始まったな。と思った途端、同席のカメラマン男性(30代前半?)に「あなたの話を僕は絶対に認めない。考えてみなさい、女性は男性より車の運転が下手じゃないか。女性と男性は違うんだ! 仕事は男女で役割を分けて当然だ!」とまくし立てられたのです。カメラマンがインタビューに割って入ったことやその剣幕にもびっくりでしたが、どうみても私より若い彼がそう考えていることへの驚きと、担当の女性記者の泣き出しそうな顔は、今でも忘れることはできません。一方、程度の差はあれ、同じ考えの方も多いのではないかと、「性」と仕事の関係って何なんだろうと改めて考えさせられる出来事でした。

あれから10年、私自身の考えは変わりませんが、あの出来事以来、「男性と女性は生理的にも生物学的にも違います。そのことはとても素敵なこと。時には配慮も必要。でも仕事は性別で分けるのではなく〜」と最初にひとこと添えるようになりました。「性」というその人のもつ個性と「仕事」のいい関係を私なりに整理した結果です。

私は小中高一貫の女子校からICU (国際基督教大学) に進学しました。女子校はすべての役割を女性が担うので男女による役割分担は当然ありませんでしたし、ICUでは性の区別はあっても、それで何かを分担する、ということはありませんでした。ですから卒業後一般事務職として旭化成に就職して初めて、おやまあ、世間ではこんなに男女で与えられる役割や立場、評価に違いがあるのね、と感じることになったわけです。そ

んな中、入社4年目に結婚が決まり、既婚で仕事を続けている事務職先輩が当時はまだ東京にいなかったことから、深く考えることもなくいわゆる「寿退社」を申し出ました。ところが当時の上司に「なんで辞めるの?」と尋ねられたのです。「結婚するので辞めます」「だからなんで辞めるの?」「結婚するので」「で、どうして仕事辞めなきゃいけないの?」と。この質問は、私に「仕事」といわゆる「私事」は択一でないこと、全部ひっくるめて私であること、そして何よりも、「前例がないことを怖がる必要はないこと。」を教えてくださいました。

以来30年近く、いつも前例なしの中で、上司や同僚、そして仕事に恵まれ支えられ、仕事と「私事」をたくさん抱えながら、旭化成で勤務を続けています。

いつも心にあるのは「女性という個性、Identityをもった丸ごとの私で仕事をしている。」ということです。だからこそ、丸ごとの私にとって、「仕事」と「私事」はお互いに支えあうかけがえのないパートナーです。「仕事」の悩みやストレス解消のヒントを「私事」が提供してくれたり、その逆があったり。両方の引き出しが多ければ多いほど、スケジュール逼迫でひいひい言うことがありますが、それでも、それぞれの分野で知り合った仲間、知り得た智慧、新鮮な感動が、自分らしく自然に仕事をするのの後押しをしてくれます。とくに、仕事から離れたところにある私事。家族、社外の女性の集まり、大好きな合唱、ヨットなどなど。私事に費やす時間は常に仕事の栄養素にもなってきました。

昨年7月に障がい者雇用の会社の社長の職に就きました。性別が個性であると同様、障がいも個性。社員のみなさん一人一人がその個性を活かし、「仕事」を通じて幸せになる。明るく楽しく前向きに、「仕事」と「私事」あわせて丸ごと、たくさんの笑顔の花が咲く会社をみなさんと作っていききたい。これが今の私の願いです。